



緊急安全対策説明会資料

2025.10.14 21：00～22：00

日本オリエンテーリング協会

対策の基本的考え方

- ①個人がナビゲーション技術を駆使し目的地に向かうことを競い、楽しむ競技であることが前提となる。
- ②これまで想定していなかった事態がオリエンテーリング競技者に生じることも想定し、安全策を講じる必要がある。
- ③主催団体の多様性、大会規模の多様性、参加者の多様性を踏まえ、エリアや大会の性質に応じたリスク分析（安全回路、トレイルの性質、携帯電話電波状況等）を行い、実効性を求めながら、過度な負荷（時間・金銭）を要しない方策を取る。
- ④参加者との協働によるリスク管理の重要性を、改めて考える。

最も重要な対策項目

- 参加者が競技エリアから外れる可能性の低減
 - ① コースの安全回路の確認と状況に応じたマップアウト可能性の低減
 - ・安全回路の設定
 - ・競技エリア境界付近でのパトロールや物理的表示
 - ・エリア周辺図の掲載
 - ② ホイッスルの携帯
 - ・遭難信号については、資料末を参照
 - ③ 通信手段の携帯の推奨／必須化（リスク、状況に合わせて調整）
 - ・通信手段の携帯およびその電話番号の把握
 - ・圏外、持っていない人への対応、携帯方法
 - ④ 位置情報把握システムの導入（リスクに応じて推奨／強く推奨／必須）
 - ・推奨レベルは、年齢（高齢者、若年層）、経験、トレインの性質によって異なる
 - ・比較は次ページ

位置情報把握システムの導入

	ビーコンタイプ（例：ココヘリ）	GNSSタイプ（例NaviTabi、Ibuki）
特徴	機器自体が専用の電波を発信。それを専用受信機により補足する。	GNSS(GPS)を利用して現在地を把握し、それを通信機能により送信
リアルタイム性	ほぼない。当該者の遭難が認知されてから有効。主催者が受信機操作できないと、顕著に落ちる	高い(但し圏外では表示されない)
コスト(費用・手間)	購入またはレンタルが必要(1000円程度～6000円程度。低減するスキームも検討中)	携帯電話をデバイスとする NaviTabiは、追加コストはほぼゼロ。アプリ等による設定コストあり
携帯の容易さ	非常に軽く、レースでも気にならない	携帯電話利用(NaviTabi)は比較的重い。専用端末(Ibuki)は中程度
運営者の負担	ほぼないが、受信機操作方法を知る必要がある(RT参照)	NaviTabiではコース設定等の手間あり(軽減要請中)

参加者との協働：プログラム、公式掲示板、SNS等

- 安全回路とセーフティーベアリング（分からない時の移動方向）の周知
- 体調に応じて無理をせず、健康状態の確認しての参加
- 競技時間を尊重して、帰還すること
- 主催者緊急連絡先の周知と利用
- 現在地ロスト等、危急時の対応
 - 目立つところに移動し、留まる
 - ホイッスルの利用

その他、確認・強化すべき対応

- ① 年齢・経験に合わせたコース設定の再確認
 - ① 高齢者、初心者、若年層
 - ② 危険箇所の現地表示
- ② 計測システムによる未帰還状況の把握と、速やかな搜索活動の開始
- ③ 警察、消防、医療機関への事前情報共有による当日対応の円滑化
- ④ 事故発生時（けが人・未帰還者）の対処要領の作成とそれに基づく対応
- ⑤ 主催者の緊急連絡先の複数掲載
 - ・地図以外にナンバービブ、位置説明等
- ⑥ 参加者の緊急連絡先の把握
 - ・個人情報の保護に注意（グーグルフォームなどが簡便）

今後の対応案

- ① ガイドラインの内容の周知・徹底
- ② 参加者のリスク対応力の強化
 - ① オンデマンド啓発資料の提供
 - ② 将来的には恒常的な研修制度化も検討
- ③ 大会開催者のリスクマネジメント資質向上
 - ・ 高度なリスクマネジメント人材の養成
 - ・ 研修会：法的留意点、オリエンテーリングのリスク、リスク分析に基づく安全対策、参加者との協働の方法（説明・同意）、事後対応、等

今後の大会開催に向けて

- 「渉外活動」において、地域や関係行政機関はもとより、警察、消防、病院等、安全管理上重要な関係機関に対しても既に実施されているより以上に、活動のレベルを上げていく。事前の説明が重要。
- 説明に際して、オリエンテーリングの競技特性や、安全管理の具体的な方法に加え、万が一の場合の具体的な対応方法を策定のうえ丁寧に説明し、速やかに動けるような連携を取っておく。
- その際には、オリエンテーリングの競技特性などを、始めて聞く相手の立場に立って、正しく、有効に伝える。

事故が発生してしまったら

- 情報伝達の優先順位
 - ①救助関係機関⇒
 - ②事故者のご家族・関係者⇒
 - ③許可・協力を頂いている関係機関（渉外先）⇒
★J O A：事務局へ電話、rm@orienteering.or.jpにメール
 - ④その他
- スピード重視だが、事実と推測は意識して厳密に分ける。
- 報道機関・関係先からの問い合わせ等については、対応窓口を設置。ご家族や個人情報に配慮しつつ、迅速丁寧に対応する。

ホイッスルの使い方

遭難信号

6回吹く → 休む を繰り返す

救助者が音の規則性に気づきやすく、位置特定にも有効
定期的に繰り返すことが重要

参加者に、競技中の緊急連絡先が容易に分かるように、地図、ナンバーカード、位置説明表などに明瞭に記載してください。

- 地図を紛失する場合や、汚損で読めなくなる場合もある。
- 地図の裏面に大きく書く、など
- ナンバーカード
- 参加者が読み取り易いように逆向きに。
- ここに緊急連絡先を、大きく明瞭に

Start	Start	Start	Start	Start
Start	Start	Start	Start	Start
11:25	12:56	M60-3	M60	M60-2
SO	SF	FO	MF	LF

主催者の緊急連絡先はできれば複数

- 運営責任者、競技責任者になっていることが多いが、出来れば**専任の安全担当者**がいる方が良い。
- ただし、**情報の一元化に留意**が必要。

安全に帰還するために

- **安全ナビゲーション**

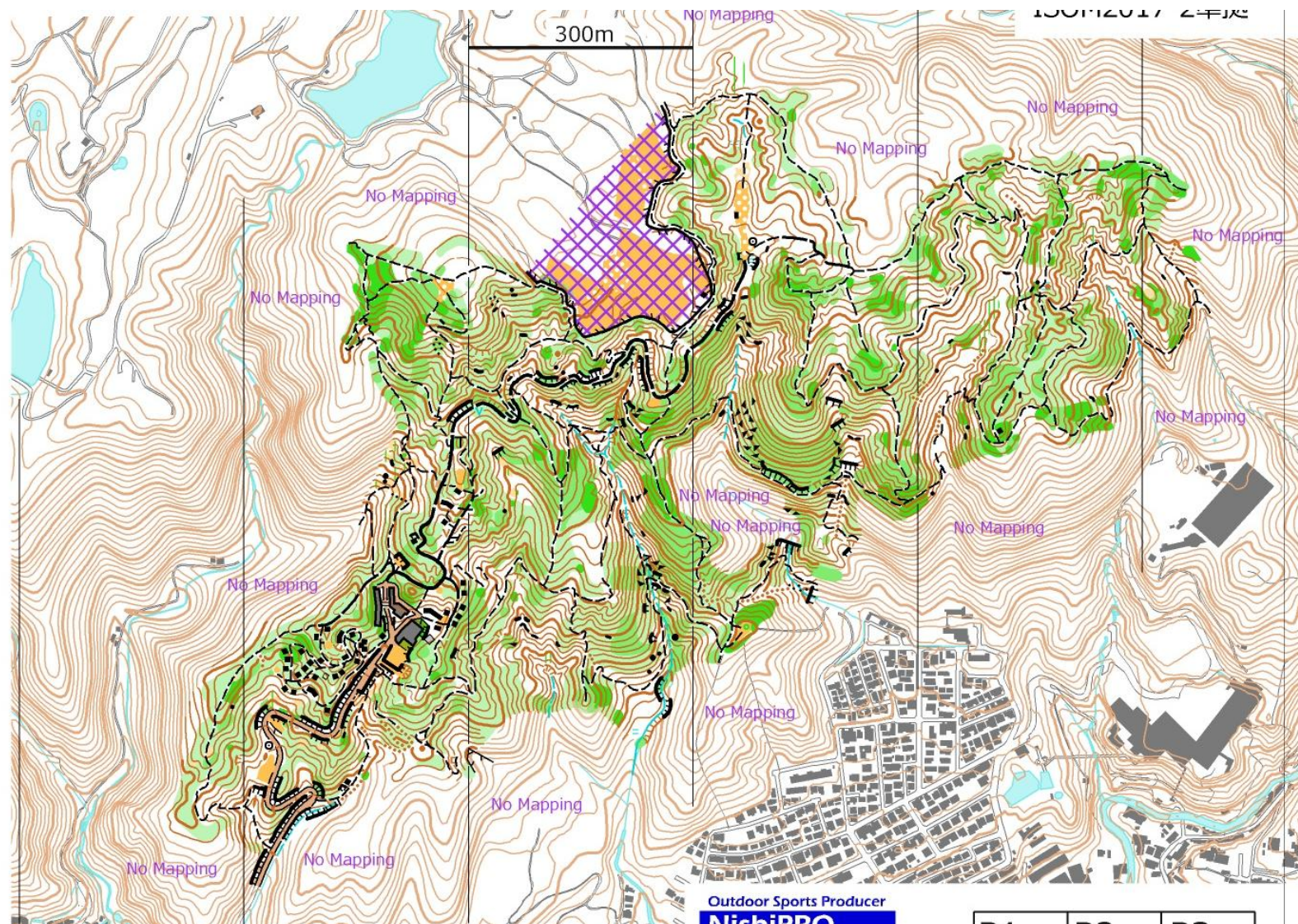
- 例；北の方に進めば大きな道に出ます、・・・

- **安全回路**：道路、オープン、など（当該クラスの）参加者が確実にそこに出たと分かる線状特徴物

- **安全回路の外側の情報（建物、地形、植生）もほしい**

競技エリア外 の情報も重要

補足説明



危険個所の現地表示：目立つように！

- いわゆるスズランテープは視認しにくい
- 蛍光色テープまたは黒と黄色（トラ色）のテープ

けが人や未帰還者が出た場合の対応について、
運営者内で責任者・指揮系統を確立し、事前
にマニュアルなどを策定

- 責任者は本部を離れない
- 複数人で行動する
- バックアップを考えておく

例：どの車で誰が運転して救助に向かうのか？

別件が起きたときはどうするか？

安全対策の具体に影響する事項

補足説明

大会の内容

競技の種目

参加人数

対象参加者のレベル

コンセプト（競技志向か普及か,など）

制約事項

テレイン特性

開催時期

地元の要請

法的な縛り

運営者の資源・能力

安全対策方法の

確実性

簡便性

参加者への負荷

運営者への負荷

作業量

人数

経費

- ・ 各大会に合った安全対策の構築を
- ・ イベントアドバイザーに相談を